**橘と桜の木**

左側にある橘（柑橘の木）は、夏には香りの良い白い花を咲かせ、冬にはマンダリンのような柑橘の果実を実らせます。この植物は歴史上の文献や 8 世紀の詩に登場し、天皇に所縁があります。右側にあるのは桜の木で、日本の象徴です。これらの木は元々、天皇の私的な居住空間である紫宸殿の正面にあったものです。紫宸殿は天皇御所の正庁である朝堂院の後ろ位置していました。紫宸殿は、後に御所の中心となりました。

橘と桜は平安神宮の象徴であり、神紋に用いられています。